

令和4年度 施設関係者評価委員会 資料

I 園の教育目標

- ・ しなやかな心とからだをもった子どもに
- ・ 友達を思いやり温かいくらしを創る子どもに
- ・ 熱中して遊びや仕事をやりとげる子どもに

評価基準

- A 計画を上回った実績となった B 計画通りの達成となった  
C 計画をしたが実績として達成しきれないことがあった  
D 計画を達成できなかった

II 教育・保育における研究テーマ

「子どものまなざしの向こうにあるもの

- 21世紀の教育を考える- 自己のスキルアップを高めながら常磐会幼稚園の保育を考える（1年次）

III 令和2年度の教育・保育の評価指標及び実績、評価について

1. 園児の確保

(1) 園児数、学級数（令和4年5月1日現在）

歳児	認可定員	認可定員内訳	1号認定	2号認定	3号認定	実員内訳	実員合計	前年度末比較	学級数	自己評価
1歳児	24	12			22	10	22	10	1	A
2歳児		12				12		12	1	
満3歳児	280	280	2	0		2	162	12	1	
3歳児			36	11		47		60	3	
4歳児			46	16		62		49	3	
5歳児			35	16		51		63	2	
合計	304	304	119	43	22	184		206	11	

・ 満3歳児は5月より入園。3月末16名在籍。総計205名

評価指標	具体的な内容	令和 4 年度実績	自己評価
(2) 園児確保の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 号認定児の定数獲得</li> <li>・ 2 号 3 号認定児については区との調整を行う。</li> </ul>	<p>① 本園の教育・保育、環境や遊びの大切さ保育の質などについて、コンセプトブック、ホームページなどを通して、入園児募集広報を行う。入園説明会については、令和 2 年度から個別対応での参加をホームページ上で募集し、教育・保育、好きな遊びから学ぶ大切さなどについて丁寧に説明をした。</p> <p>② 区と連携し、2・3号認定児の定員確保を行う。認定こども園の良さと、質の高い教育・保育を行っていることを広めた。</p> <p>③ こどもセンター内の講座で本園の教育内容の発信をするとともに、コロナ緩和に伴い毎月 1 回園庭開放を開催したことで常磐会幼稚園について幅広く伝えることができた。未就園児親子クラスの開催がコロナの影響で出来なかったが緩和状態になれば令和 5 年度開催する予定。</p> <p>④ 1 号認定児の入園確保は引き続き課題が残る。</p>	B
(3) 入園選考方法 令和 5 年度募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園決定方法（抽選）に伴う保護者周知</li> </ul>	<p>① 1 号認定：入園相談会を行い、本園の教育内容や教育方針、認定こども園としての本園のあり方について理解したうえで入園を希望した者について入園願書を受け付け募集定員は獲得できた。願書提出後、入園の面接を行い入園を決定した。</p> <p>② 2・3号認定：区役所で決定後、幼児観察と親子面接を実施した。</p>	B
2. 教育・研究の推進 [重点課題]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常磐会幼稚園保育プランの再編</li> <li>・適正な職員配置と教育保育を向上し質の高い保育をめざす</li> <li>・コロナ禍での保育のあり方の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の保育の振り返りを丁寧にすることで、マイナス面だけでなく、プラス面も見えてきた。また、多様な経験年数の保育者集団ならではの意見交換でそれぞれの思いや気づき、困りごとなどざっくばらんに話すことでいろいろな意見を聞いて学んだり、良い方向への導きにつながっていった。なにより、それぞれが互いの意見を尊重できる、また良い刺激を与えあう人間関係が深まりつつある。</li> <li>・会議等で話すだけでなく、日常の会話の中で保育の困りごとや気づきなど振り返ることでこまめな振り返りができる環境が構築しつつある。</li> <li>・園全体でつながった遊びを 1 事例としてそれぞれの気づきや感じたことを各自書面におこした。またそれを 1 枚にまとめた（まなざし A3 見開き カリnjuース事例）ことで 1 例ではあるが遊びのつながりを職員間で共有することができた。</li> <li>・各研修のリモート開催が増えつつある。園内にいながら研修を受ける機会について、研修を受けるタイミングを自身でつくり、時期、人、内容に応じた研修を選ぶ大切さを感じた。</li> </ul>	A

<p>(1) 認定こども園としての教育・保育の創造</p>	<p>・保護者への教育。保育の取り組みの理解</p>	<p>① 幼稚園型認定こども園として教育・保育の成果をあげるための実状を広く公開した。 ア、 コロナの状況を踏まえながら、学期ごとに保育参観を行った。 イ、 本園紀要『まなざしXXⅠ』で紙上発表した。</p> <p>② 認定こども園としての適切な人員配置と保育の資質向上 ア、 長時間保育児の職員体制や教育・保育内容を検証し、幼稚園型認定こども園としての特色ある教育・保育を提供した。 イ、 個々の課題意識をもち、課題に向かって学ぶ方法をそれぞれに考えることで、職員の資質の向上を目指す。職員配置を考慮し、互いに学び成長しあい、スキルアップを目指せる職場環境にした。 ウ、 子どもとのかかわりを楽しみながら教育・保育を充実できる体制づくりを図った。 エ、 コロナ禍の中で、リモート、在宅での仕事について園内でできること、自宅でもできることなど、仕事内容の仕分けができるような体制を整えたとともに、自分の働き方の見通しができるような、人づくり、職場づくりをめざした。 オ、 園庭や身近な自然環境をいかした遊びの充実、自然とのふれあいを深めた。 カ、 付属 3 園の教育・保育についてコロナの状況下でも学びあえる大切さを考え、保育研究や講演会を行い、各園の保育教諭の資質向上を図る予定であったが、コロナ感染拡大予防の見地から、開催を見送った。</p>	<p>B</p>
<p>(2) 園児の生活の充実と安全確保</p>	<p>・安心、安全な環境の下で生活ができるように体制を整える。 ・コロナ禍での保育のあり方を考える。 ・保護者へ子どもの遊びの様子、遊びの大切さを以下に伝えるか。</p>	<p>① 新型コロナウイルスの拡大防止について、健康、衛生面での施設管理をしながら、保育をとめずに過ごす方法、安心・安全に生活するための環境のあり方、危機管理・安全マニュアル作成や人員配置を再考した。</p> <p>② 子どもの育ちについて、1、2・満3歳児については、ポートフォリオで個々の育ちを知らせ、3歳から5歳児までは、参観やホームページ上で随時知らせることで、子どもの育ちを保護者に視覚的に示すことができ、保護者からも評価を受けた。作成の時間の確保が課題となるので、乳児クラスの保育時間内の時間のもち方について、一人一人の働き方について、随時検証し体制を整えていった。</p> <p>③ 令和4年度は3号認定児（内1歳児）の長時間保育該当者が多く、保育にあたる保育者の人数や場の確保、引継等の方法を考慮し、一人一人の子どもが安心して保護者の迎えを待て</p>	<p>B</p>

		る体制を整えた。令和５年度からは、園舎南側を乳児棟として機能させるとともに、長時間保育の子ども達が集える場を新たに確保する予定。	
(3) 認定こども園体制に伴う事務手続きに関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市こども青少年局をとおしての提出文書の内容把握と調整。</li> <li>・保育の無償化、新２号認定児の受け入れ</li> </ul>	① 利用手続き補助金等に関して、役割分担処理をし、行政や学園と連絡を取り、申請を行った。 ② 事務の効率化が実現しつつある。各担当の役割、提出書類の確認など、確実性につながった。 ③ 昨年からの課題となっている園児の事務担当の産休に伴う事務分担の負担については、フリーの職員を配置することで効率化を図ることができた。	B
(4) 特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語で遊ぼう、わくわくタイムでの教育時間内での指導内容の充実</li> <li>・特別支援児、保護者に対する相談、支援の充実をめざす。</li> <li>・スペシャリストプロジェクトとして、専門家にきていただき、子どもたちの遊びにつながる刺激となるよう計画をする。</li> </ul>	① 「英語で遊ぼう」ECC 講師派遣 ② 「わくわくタイム」「運動遊び」については、引き続き行い、その時期にあった子どもの育ちをまえた指導を仰ぐことができた。（４、５歳児対象 計 年３回実施） ③ スペシャリストプロジェクト（３歳児以上） 多様な専門家を迎え、刺激となることで園児の遊びがつながり、深まるきっかけづくりをした。（人形劇鑑賞２回、シャボン玉ショー、魚の解体ショー）魚の解体ショーと同じ魚が献立に出たことで苦手な子どもも興味をもち間食するなど食育につながった。 ④ 九月初めのお楽しみまつりは、役員に限らず保護者から手伝いを任意で募集し開催した。２号認定児の保護者も仕事の調整をして参加してくださるなど保護者のサポートも大きく、当日１～５歳の全園児で楽しむことができた。	A
(5) その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援事業の充実 未就園児親子クラス「いるか」「ペンギン」</li> <li>・ 預かり保育の充実</li> </ul>	園庭開放「ペンギん組」は、にコロナの様子を見ながら４月から毎月１回土曜日に開催した。毎回、２０組前後の参加者があり園庭開放を楽しみにしている方が多く、需要があると感じた。将来的な園児獲得の努力のひとつとして行う必要性を感じている。 また、子どもセンターと連携をとり、センター利用者が園庭開放を利用するなどし、常磐会幼稚園を知っていただく機会が増えた。その甲斐あって入園希望へとつながった。 親子クラス「いるか組」は１年間開催を見合わせた。 ひまわり（預かり保育）利用者の増に伴う、保育者の獲得、落ち着いた環境で長時間児を迎える方法など、担当者だけでなく、全職員が考える必要を感じる。	B